

問1 平安時代の出来事について、貿易や文化の観点から説明した文として正しいものはどれか。（2022年 千葉県公立入試 類似）

1. 平清盛が兵庫の港を整備して日宋貿易を推進したほか、藤原頼通によって平等院鳳凰堂が建立されるなど、独自の文化や交流が見られた。
2. 足利義満が明との貿易を開始し、京都の北山に金閣を建立して、公家文化と武家文化を融合させた。
3. 聖徳太子が小野妹子を遣隋使として派遣し、大陸の進んだ制度や仏教を積極的に取り入れた。
4. 徳川家康が鎖国体制を完成させる一方で、オランダや清との限られた貿易を長崎の出島で続けた。

問2 日本の歴史における時代区分について、平安京に都が移されてから鎌倉幕府が成立するまでの期間を記録した資料があります。この「平安時代」と呼ばれる期間は、およそ何年間続いたとされていますか。（2017年 岐阜公立入試 類似）

1. 約200年間
2. 約300年間
3. 約400年間
4. 約500年間

問3 奥州藤原氏が拠点とした平泉の文化や歴史的背景について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。（2021年 三重公立入試 類似）

1. 浄土信仰の影響を強く受け、中尊寺金色堂などの華麗な寺院が建立された。
2. 聖武天皇の命により、国家の安寧を願って東大寺の大仏が造られた。
3. 運慶や快慶などの仏師が活躍し、東大寺南大門に金剛力士像が安置された。
4. 足利義満によって、公家文化と武家文化が融合した金閣が建立された。

問4 平安時代の中期、894年に菅原道真の建議によって遣唐使が停止されたことをきっかけに、これまでの大陸文化を日本の風土や好みに合わせて消化した貴族中心の文化が発達しました。この文化において、日本人の感情を表現するために漢字を簡略化したり、その一部をとったりして作られた文字を何といいますか。（2017年 大阪公立入試 類似）

1. かな文字
2. ハングル
3. 梵字
4. 楔形文字

問5 白河上皇が院政を開始する前提となった、当時の皇室と藤原氏との関係性の変化について述べた説明として、最も適切なものはどれか。（2024年 新潟県公立入試 類似）

1. 藤原氏を外戚に持たない後三条天皇が即位したことで、摂関家の影響力が弱まった。
2. 平氏が武士として台頭し、藤原氏を政治の中枢から完全に追放した。
3. 承久の乱の結果、幕府が朝廷の政治に介入するようになった。
4. 遣唐使が廃止され、国風文化が広まったことで天皇の権威が向上した。

問6 894年に、唐の国内情勢の混乱や往復する航路の危険性を理由として、遣唐使の派遣が停止されました。この政策転換を主導した人物と、その後発達した日本独自の文化の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2022年 愛媛公立入試 類似）

1. 菅原道真 — 国風文化
2. 小野妹子 — 飛鳥文化
3. 阿倍仲麻呂 — 天平文化
4. 最澄 — 弘仁・貞観文化

問7 奈良時代から平安時代にかけて展開された政治や文化の特徴について、当時の支配階層とその活動に注目して説明したものとして、正しいものはどれですか。（2025年 山梨公立入試 類似）

1. 天皇や貴族が政治の中心を担い、都の華やかな文化が全国に展開される中で、地方支配の仕組みが整えられた。
2. 各地の武士が実力で領地を奪い合い、実力主義に基づく独自の軍事文化を全国に広めていった。
3. 都市の有力な商人たちが自治組織を作り、海外との貿易を通じて得た富で町人独自の文化を築いた。
4. 地方の農民たちが自衛のために武装し、宗教的な団結力をもって国を動かすほどの政治力を持った。

問8 平安時代末期に白河上皇が始めた「院政」の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 徳島公立入試 類似）

1. 天皇の母方の親戚である藤原氏が、摂政や関白となって政治を独占した。
2. 天皇が自ら政治を行う「親政」を強化し、律令に基づく中央集権体制を再建した。
3. 上皇が独自の軍事力として「北面の武士」を置き、仏教を厚く信仰して法皇となることもあった。
4. 武士の棟梁が征夷大將軍に任命され、幕府を開いて全国の守護や地頭を統制した。

問9 平安時代に発生した藤原純友の乱が、その後の日本の歴史においてどのような意義を持ったか、その背景を含めて説明したものとして最も適切なものはどれか。（2023年 愛媛公立入試 類似）

1. 東北地方の蝦夷を服従させ、朝廷の支配地域を北へ大きく広げる契機となった。
2. 朝廷が自らの軍事力で反乱を鎮圧できず、武士の力を借りたことで武士の台頭を促した。
3. 源氏と平氏が対立するきっかけとなり、武家政権である鎌倉幕府が成立する直接の要因となった。
4. 海賊の取り締まりを強化したことで、日宋貿易における海上交通の安全が確保された。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 平清盛が兵庫の港を整備して日宋貿易を推進したほか、藤原頼通によって平等院鳳凰堂が建立されるなど、独自の文化や交流が見られた。	平安時代は、藤原氏による摂関政治が行われていた時期に平等院鳳凰堂に代表される国風文化が発展し、その後、平安末期には平清盛が日宋貿易を通じて大陸との交流を活性化させました。選択肢にある足利義満は室町時代、聖徳太子は飛鳥時代、徳川家康や鎖国は江戸時代の出来事であり、時代区分を正確に把握することが重要です。
問2	<b>答え 3</b> 約400年間	794年の平安京遷都から、1185年の平氏滅亡や1192年の源頼朝による征夷大将軍就任（鎌倉幕府の成立）までの期間を指します。この約4世紀にわたる長い期間は、貴族による政治から武士による政治へと社会の仕組みが大きく変化した時代でした。
問3	<b>答え 1</b> 浄土信仰の影響を強く受け、中尊寺金色堂などの華麗な寺院が建立された。	平安時代末期には、阿弥陀如来を信仰して死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土信仰が流行しました。奥州藤原氏は豊富な金や馬の産出による経済力を背景に、平泉に中尊寺や毛越寺を建立し、その建築や庭園を通じて地上に極楽浄土を再現しようとしていました。
問4	<b>答え 1</b> かな文字	遣唐使の廃止によって大陸との直接的な交流が途絶えたことで、それまでの唐風の文化から、日本の自然や日本人の感性を重視する「国風文化」へと変化しました。この時期に「かな文字」が考案されたことで、『源氏物語』や『枕草子』などの物語や随筆、和歌が数多く生み出され、国文学が大きく発展しました。
問5	<b>答え 1</b> 藤原氏を外戚に持たない後三条天皇が即位したことで、摂関家の影響力が弱まった。	それまでの摂関政治は、藤原氏の娘が天皇の妃となり、生まれた子を天皇に立てることで成立していました。しかし、藤原氏を母に持たない後三条天皇が即位したことで、藤原氏が摂政・関白として力を振るう根拠が揺らぎました。その子である白河天皇が上皇となって院政を確立する土壌が、ここで作られました。
問6	<b>答え 1</b> 菅原道真 一 国風文化	菅原道真は、唐の衰退という国際情勢を的確に判断し、遣唐使の停止を建議しました。これにより大陸文化の直接的な影響が薄まり、日本の風土や感性に合わせた「国風文化」が開花することとなりました。かな文字の発明や、住居様式の寝殿造などはその代表的な例です。
問7	<b>答え 1</b> 天皇や貴族が政治の中心を担い、都の華やかな文化が全国に展開される中で、地方支配の仕組みが整えられた。	古代は天皇や貴族が政治の実権を握っていた時代です。都を中心として、律令制に基づいた地方支配の仕組み（国・郡・里）が整備されました。また、仏教や大陸の影響を受けつつ、貴族を中心とした華やかで洗練された文化が形成・展開されたことが大きな特徴です。武士や商人、武装した農民が政治や文化の主導権を握るのは、その後の時代のことです。
問8	<b>答え 3</b> 上皇が独自の軍勢力として「北面の武士」を置き、仏教を厚く信仰して法皇となることもあった。	院政では、上皇の御所の警護のために「北面の武士」と呼ばれる武士団が組織されました。これが平氏などの武士が中央政界に進出するきっかけの一つとなりました。また、院政を行った上皇の多くは出家して「法皇」となっても、引き続き政治の実権を握り続けました。
問9	<b>答え 2</b> 朝廷が自らの軍力で反乱を鎮圧できず、武士の力を借りたことで武士の台頭を促した。	藤原純友の乱や平将門の乱といった大規模な反乱に際し、当時の朝廷には自力でこれらを鎮圧するだけの軍勢力が不足していました。そのため、地方に根を張っていた他の有力な武士を動員して鎮圧に当たらせる必要がありました。この結果、武士は朝廷にとって不可欠な軍勢力として認められるようになり、のちの武家社会の形成につながる大きな背景となりました。